

CBD オイルの経鼻投与を行った線維筋痛症の2例

○上馬場和夫¹⁾²⁾、許 鳳浩³⁾

1) 帝京平成大学東洋医学研究所 2) フジ虎ノ門整形外科病院
3) 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科臨床研究開発補完代替医療学講座

【背景と目的】

CBD (カンナビジオール) は、麻の成熟した茎と種子の部位 (日本で産業利用が認可) から抽出された成分 (ポリフェノールの一種) である。CBD は近年盛んに研究がされており、欧米では臨床応用されている食品である。カンナビノイドの医療的効果 (抗難治性てんかん、鎮痛、免疫促進、抗アルツハイマー病など) が知られ、カナダなどでは、テトラヒドロカンナビノイド (THC) などの麻薬成分さえ医療用として認可されてきた。

デンマークで無農薬栽培された天然の麻 (種子と成熟した茎) から超臨界CO2抽出法によりつくられたCBD原料をオリーブオイルとブレンドし、さらにモズクフコイダンを配合したCBDオイルが口腔内投与食品として日本では販売されている。舌上に口腔投与した場合、唾液と混ざって薄まったり、また舌苔が厚い場合は吸収が低下することが推定できる。

我々は、アールヴェーダでは経鼻投与が頻用されていることにヒントを得て、CBDオイルの経鼻投与を考えた。近年、現代医学でも、オキシトシンやインスリン、リファンピシンなどを経鼻投与することが、経口や経静脈投与よりも確実に中枢神経系に作用させることができると知られてきた。また、筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群、線維筋痛症などが脳内炎症が原因である可能性が示唆されており、

中枢神経系に作用させるために経鼻投与は合理的な方法と推定される。経鼻投与の安全性と可能性を示唆する線維筋痛症患者を経験したので報告する。

【症例】

線維筋痛症患者2名に、経鼻投与の安全性と有効性を確かめるべく、同意を取得後に1か月間毎夕2滴づつの経鼻投与を行った。症例1: 61歳女性。20年前脳脊髄液減少症の術後から全身特に左下背部の痛みが強かった。リリカ、トラムセット、サインバルタなどを試みるも効果なく、鍼灸や漢方薬、プラセンタ1Aなどの効果も十分ではなかった。1か月間毎夕2滴づつCBDオイルを鼻腔内に投与してもらったところ、左背部の痛みは半減した。症例2: 53歳女性。20年前に頸椎損傷。5年前に脊柱管狭窄症の手術をした後から左顔面の痛みと発汗などが出現し、種々の治療が十分に奏功しなかった。毎夕2滴づつCBDオイルの点鼻をしてもらったところ、顔面の痛みが半減した。

【考察と結論】

両者とも、点鼻を開始して、激しい痛みが部分的にでも半減し、副作用的なものはなかった。経鼻投与による脳内吸収の報告はないが、CBDオイルの経鼻投与が、脳内に作用した可能性があり、今後研究する価値があろう。